



R8.2.20、R8.2.21 大甕・太田地区学校適正化に係る保護者懇談会
(南相馬市教育委員会事務局教育総務課)

資料 1

大甕・太田地区の 学校適正化について

南相馬市教育委員会



本日伝えたいこと

- 1 南相馬市の教育が目指すこどもの姿
- 2 大甕・太田地区学校適正化に係る提案（市の方針）
- 3 今後の大甕・太田地区学校適正化の流れ



1. こどもたちを取り巻く環境

これからの時代は・・・

人口減少
少子高齢化の進展

東日本大震災など
大規模災害の発生

未知の感染症
流行

グローバル化の
進展

ICT、AIなど
技術革新

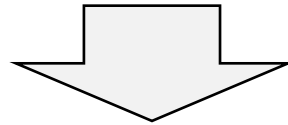
人生100年時代の
到来

こどもたちにはどんな力が求められると思いますか？

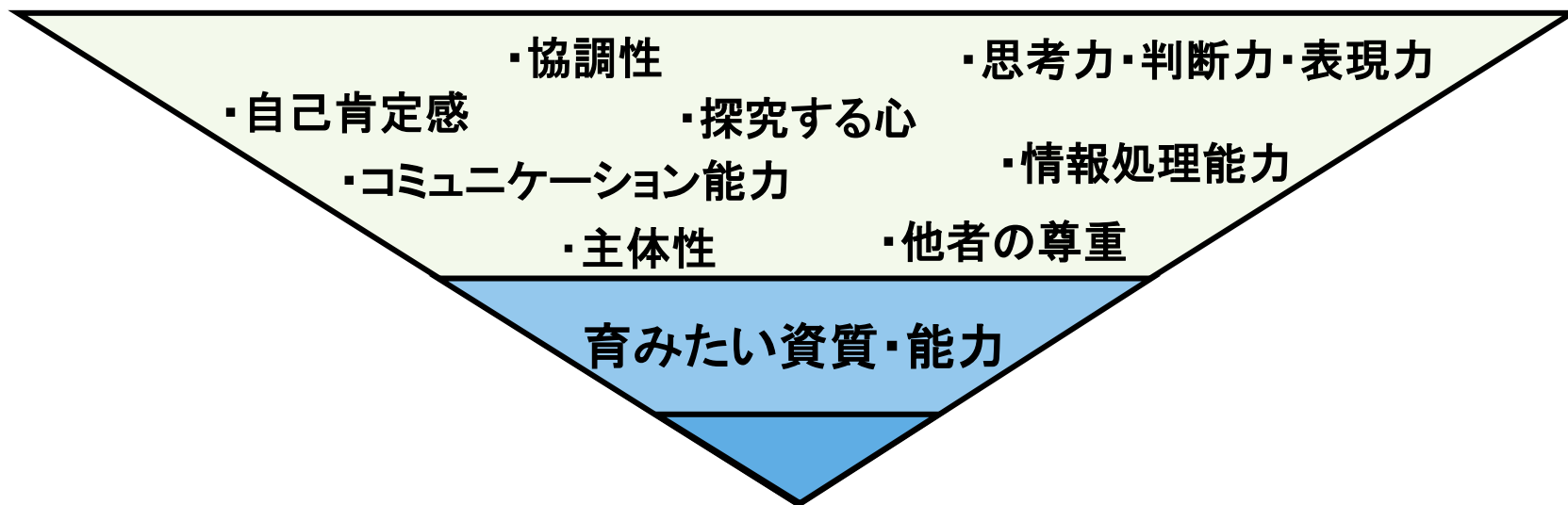


1.こどもたちを取り巻く環境

現代はますます将来の予測が困難な時代へ



不透明な将来に向かい、厳しい時代を乗り越えていく上で、
必要な資質や能力の育成が求められる



南相馬市がこどもたちに「育みたい資質・能力」とは？



2. 南相馬市の学校教育

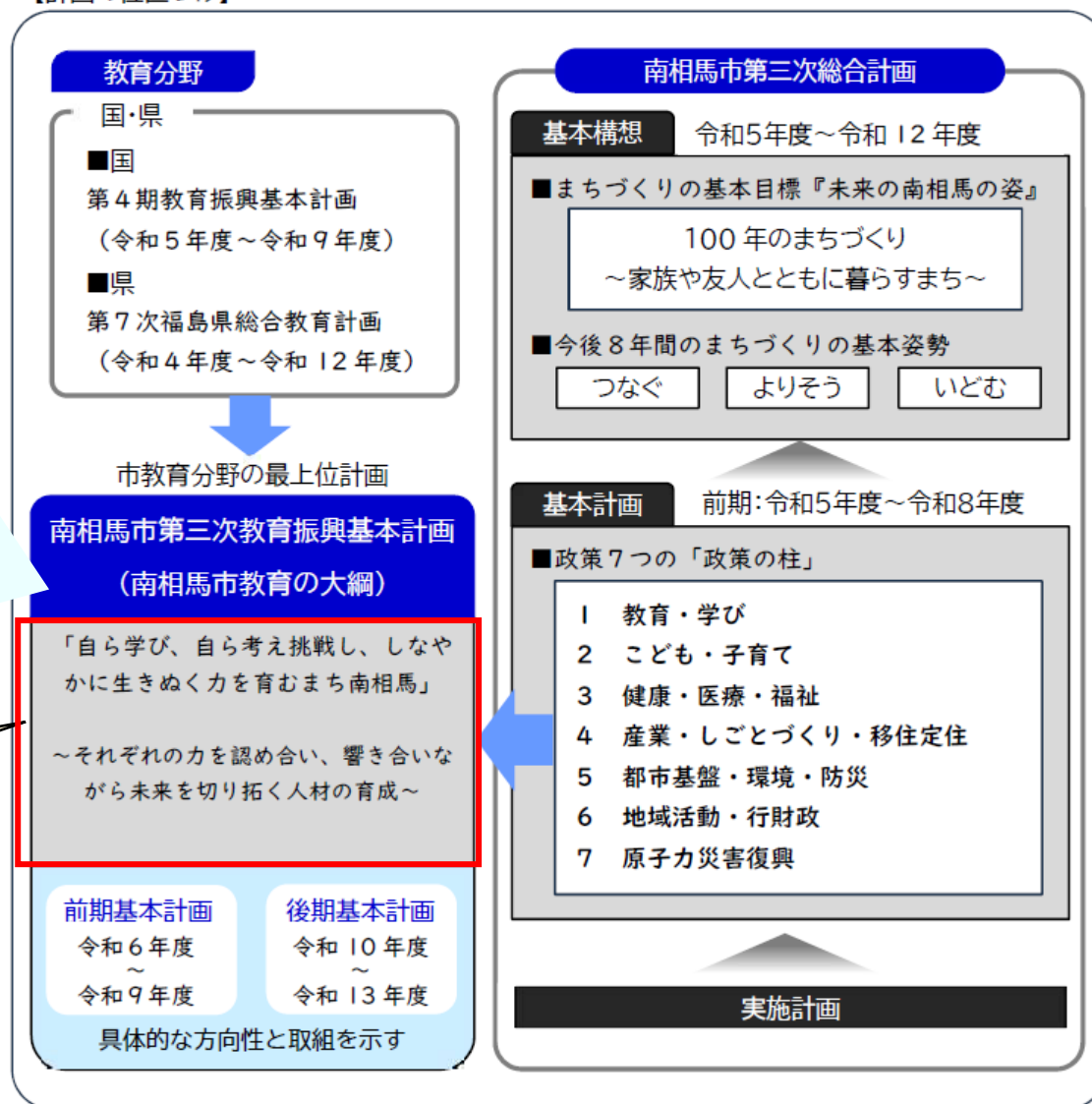
南相馬市第三次教育振興基本計画（令和6年3月策定）



【基本理念】

「自ら学び、自ら考え挑戦し、しなやかに
生ぬく力を育むまち南相馬」
～それぞれの力を認め合い、響き合い
ながら未来を切り拓く人材の育成～

【計画の位置づけ】





2. 南相馬市の学校教育

目指すこどもの姿

未来を切り拓き、強みを生かし

自分らしく豊かに生きぬくこども

障がい、文化的・言語的背景、特異な才能などの多様性を認め合い、ともに成長し、変化の激しい時代を乗り越え、力強く生きぬくために必要な資質・能力を育みます。

知

自ら考え、判断し、
表現する能力と
確かな学力

徳

豊かな心・
ふるさと南相馬を
愛する心

体

力強く
生きぬくための
健やかな心と体

「知・徳・体」は、
文部科学省が提唱
する「生きる力」の
構成要素として位置
づけられています。

知・・・ 知識、学力
徳・・・ 人間性
体・・・ 健康、体力

基本目標：学校教育分野

豊かな心と体の育成、教育水準の向上によりこどもの未来を切り拓く力を高めるとともに、強みを伸ばし、無限の可能性にチャレンジする積極性を育みます

- 未来を切り拓くための基礎となる「知・徳・体」をバランスよく育みます。
また、至誠(まごころ)学の実施により、未来を担うこどもたちの豊かな心・ふるさと南相馬を愛する心を育みます。
- 基礎学力の定着や活用力の向上、学習意欲の向上を図り、確かな学力を育成します。
また、誰一人取り残されない教育環境を整え、児童生徒一人ひとりの状況に応じた教育を行います。



2. 南相馬市の学校教育

具体的な取り組み（一部）

- 「報徳仕法、相馬野馬追、東日本大震災・原子力災害」を柱とした
「**至誠学(まごころがく)**」* 1
- **家庭学習の充実**（学習ドリルアプリなど）
- 小学校の**フォニックス学習*** 2、中学校の**ALTDAY*** 3・海外研修
- 一人一台のタブレット等を活用した**デジタル学習**（ICT支援員* 4の配置など）
- **いじめを許さない学級、学校づくり**
- **学習支援員・介助員の配置**による一人ひとりに応じた就学、学習支援

* 1 至誠学(まごころがく)・・・南相馬市の児童生徒が、郷土のよさを実感し、郷土を愛する気持ちをもったり、お互いに思いやり、尊重し合い、まごころで接することの大切さを学んだりすることを通して、自分の生き方を考える学習道徳や総合学習の時間で、南相馬市の自然や文化、伝統などを学ぶ学習のこと。

* 2 フォニックス学習・・・英語の音と文字のルール（関係性・規則性）を学ぶ学習方法のこと。

* 3 ALT（Assistant Language Teacher）・・・英語授業で教員を補助する外国語指導助手のこと。

ALTDAY（ALT集中派遣プログラム）・・・英語によるコミュニケーションの機会を確保するとともに、外国語や外国文化への理解を深め、学習意欲の向上を図るため、各中学校に年1回ALTを10名程度集中派遣し、体験活動等を実施。（対象：中学1年生）

* 4 ICT支援員・・・学校でのICTを活用した授業や機器操作を支援する専門スタッフのこと。



2. 南相馬市の学校教育

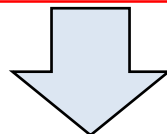
南相馬市公立学校適正化計画（平成30年11月策定）

公立学校適正化計画の推進（市教育振興基本計画の取り組み）

こどもたちに必要な資質・能力を育むために・・・

地域との合意形成を図りながら、地域の状況に応じた市内小中学校の適正化を推進

⇒地域の伝統を受け継ぎ、その地域の特性を活かした特色と魅力ある教育環境づくりに取り組む



「南相馬市公立学校適正化計画」が目指す教育環境

こどもたちは義務教育における集団活動を通して、社会性・協調性・集団性を培い、成長していく。

⇒そのため、様々な見方・考え方や経験を持っている友達との出会いが大切であり、互いに学びあい、

高めあうなど切磋琢磨する教育環境の実現を目指す

「学校適正化」の基本的な考え方

- ① 児童生徒の教育環境を最優先に考えた適正規模及び配置
- ② 保護者や地域住民の意見への配慮

主な取り組み

- 適正規模・配置に基づく学校のあり方の検討
- 学校統合、小中一貫教育の導入の検討
- 小規模特認校制度導入の検討
- 特色と魅力のある教育環境整備の検討



2. 南相馬市の学校教育

南相馬市の学校教育の体系

南相馬市第三次総合計画

100年のまちづくり
～ 家族や友人とともに暮らすまち～

教育振興基本計画の
取り組みの一つとして、
市教育委員会では
公立学校の適正化を
推進している。

南相馬市第三次教育振興基本計画

自ら学び、自ら考え挑戦し、しなやかに生きぬく力を育むまち南相馬
～それぞれの力を認め合い、響き合いながら未来を切り拓く人材の育成～

教育振興基本計画で
目指す「こどもの姿」を
育成するため、各学校
それぞれが、「知・徳・体」
のバランスを重視した教育
課程を編成している。

目指すこどもの姿

未来を切り拓き、強みを生かし
自分らしく豊かに生きぬくこども

障がい、文化的・言語的背景、特異な才能などの多様性を認め合い、ともに成長し、変化の激しい時代を乗り越え、力強く生きぬくために必要な資質・能力を育みます。

知

自ら考え、判断し、
表現する能力と
確かな学力

徳

豊かな心・
ふるさと南相馬を
愛する心

体

力強く
生きぬくための
健やかな心と体

市 内 各 小 学 校 ・ 中 学 校



2. 南相馬市の学校教育

こどもたちに必要な資質・能力を育むためには、一定の学校規模が必要
公立学校適正化計画で定める望ましい「**適正規模及び適正配置**」の基準は・・・

【適正規模】

小 学 校

- ・ 1 学級あたり 21 ～ 25 人
- ・ 1 学年あたり 2 ～ 3 学級

- ◆ 多様な意見に触れること、人間関係が固定化しないようクラス替えが可能となる各学年 2 学級以上が望ましいと考えます。
- ◆ 児童と教員が向き合い、相互理解を図り、理科室や音楽室等の割当が円滑に行える各学年 3 学級までが適正規模と考えます。

中 学 校

- ・ 1 学級あたり 26 ～ 30 人
- ・ 1 学年あたり 2 ～ 4 学級

- ◆ 音楽や美術等の技能教科等に教員が配置され易く、教員間の協力も円滑に行うことができるよう、各学年 2 学級以上が望ましいと考えます。この規模になると部活動の選択肢も広がります。
- ◆ 生徒と教員が向き合い相互理解を図り、十分な教育効果が得られる、各学年 4 学級までが適正規模と考えます。

【適正配置】

区 分	通学距離	通学時間(自転車、スクールバスの利用)
小学校	概ね 4 キロ以内	概ね 1 時間以内
中学校	概ね 6 キロ以内	概ね 1 時間以内

上記基準に満たない学校は、優先的に学校適正化を検討する。
ただし、**学校適正化には児童生徒、保護者、地域住民に対して十分説明したうえで、合意に基づき進める。**



3.大甕・太田地区学校適正化に係る提案

【①施設一体型 義務教育学校の設立】

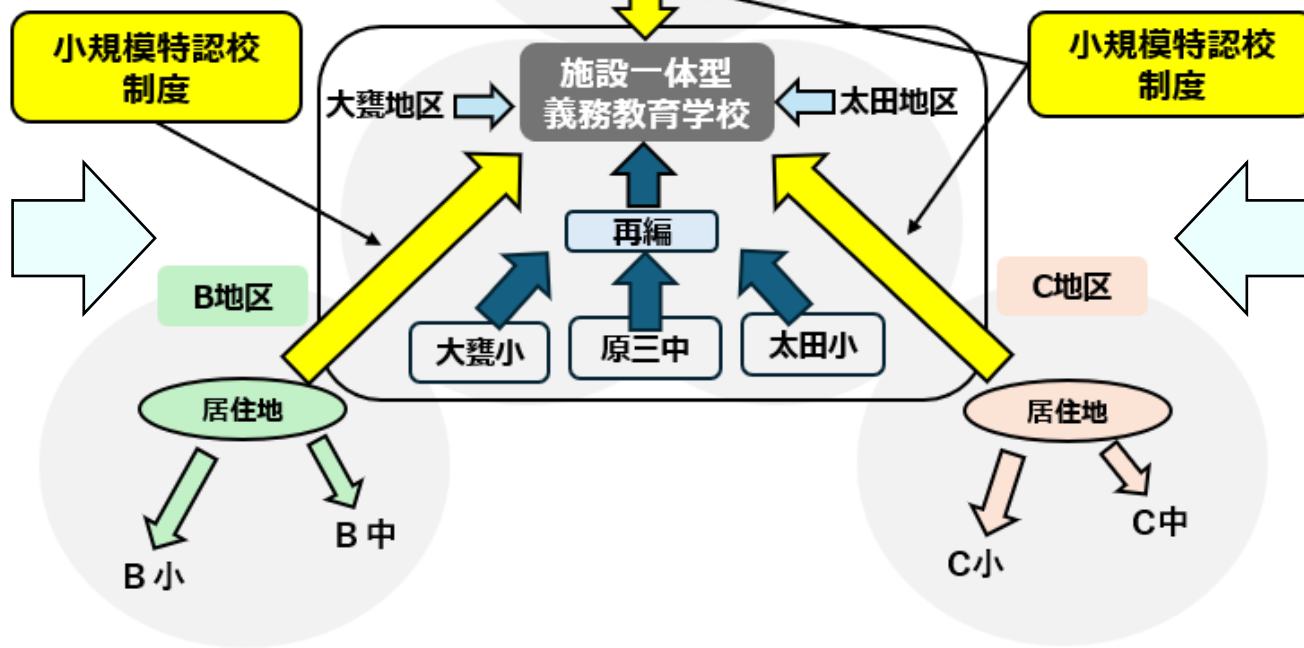
地域性を考慮した「大甕小学校・太田小学校・原町第三中学校」の組み合わせによる小中一貫教育のメリットをより実現しやすい「施設一体型義務教育学校」を設立します。

新たな学校イメージ

【②小規模特認校制度の導入】

少人数によるきめ細かな指導と、地域と連携した「特色」・「魅力」ある教育活動を生かし、通学区域外から通学を認める「小規模特認校制度」を導入します。

義務教育 9 年間を通した教育課程を編成し、教科担任制や相互乗入れ指導などの実施により、教育の質の更なる向上を目指します。



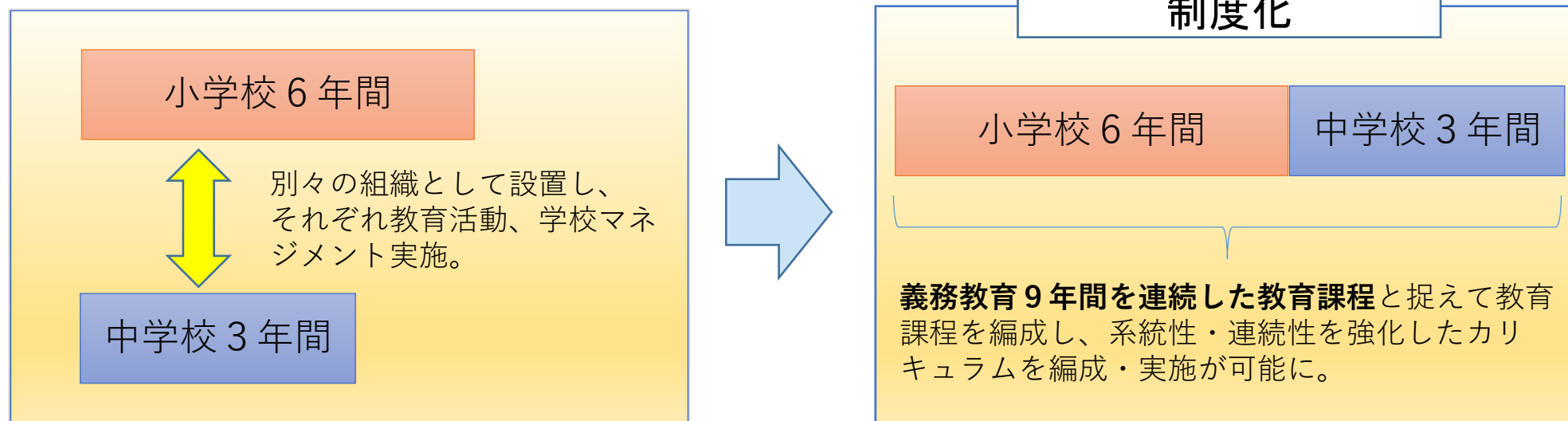
新たな義務教育学校の教育理念などに賛同する児童、生徒の受入れを可能にし、安定した学校運営を目指します。



3.大甕・太田地区学校適正化に係る提案

小中一貫教育とは？

小中学校の教職員が目指すこども像を共有し、義務教育 9 年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指すもの。



義務教育学校とは？

平成 27 年の学校教育法改正により、平成 28 年度から制度化され、これまでの「小学校」「中学校」に加え、新たな学校種として「義務教育学校」が位置づけられた。

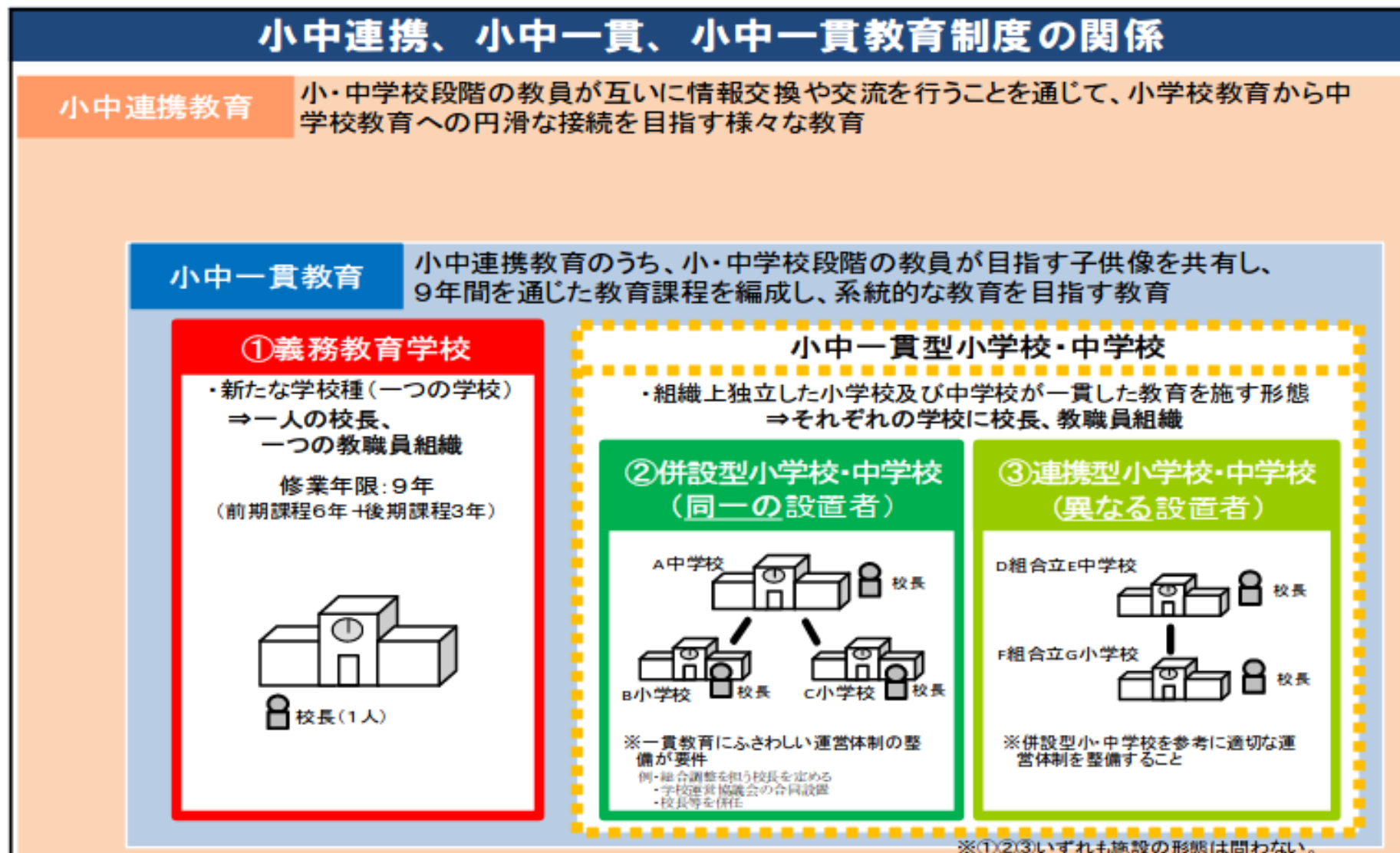
小学校・中学校との違いは？

義務教育学校は、小学校課程から中学校課程までの義務教育（9 年間）を一貫して行う 1 つの学校であり、小中一貫教育の形態の 1 つ。



3.大甕・太田地区学校適正化に係る提案

小中一貫教育の3 類型イメージ



※現在の小高小学校、小高中学校は施設分離型の「②併設型小学校・中学校」

※小中一貫教育（義務教育学校含む）に関する詳細は【補足資料1】を参照



3.大甕・太田地区学校適正化に係る提案

【参考事例】義務教育学校って、どんな学校？～宮城県大崎市古川西小中学校の事例～

大崎市初の義務教育学校 令和5年4月開校 大崎市立古川西小中学校

古川西中学校
生徒数：123名

東大崎小学校
児童数：80名

西古川小学校
児童数：70名

志田小学校
児童数：36名

高倉小学校
児童数：25名

学区外 4名
4つの小学校と
1つの中学校の統合 計338名

期ブロック	前期ブロック				中期ブロック			後期ブロック		合計
学 年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第7学年	第8学年	第9学年	
児童生徒数	29名	38名	25名	41名	40名	40名	42名	43名	40名	338名

児童生徒数（令和5年4月22日）



3.大甕・太田地区学校適正化に係る提案

【参考事例】義務教育学校って、どんな学校？～宮城県大崎市古川西小中学校の事例～

【児童生徒数】（R7年度＝開校3年目）

322名（前期課程：200名、後期課程122名）

16学級（学年単学級は1、2、3、5、8、9年生）

（R5＝338名 19学級）

【学校教育目標】

『共に学ぶ 高め合い 夢に向かって未来を拓く 児童生徒の育成』
⇒「地域とともにある学校」を目指して教育活動を展開しています

【教育課程】

4 - 3 - 2 制

前期部：1～4年生、中期部：5～7年生、後期部8・9年生



【学校経営基本方針】

- ◎ 義務教育の9年間を見通した教育課程を編成し、魅力あふれる小中一貫教育を展開する。
- ◎ 仲間と協働して主体的に学び、志の実現に向けて自ら行動できる児童生徒を育成する。
- ◎ 安心・安全の信頼を基盤とし、家庭・地域と共に歩む学校づくりを推進する。



3.大甕・太田地区学校適正化に係る提案

【参考事例】義務教育学校って、どんな学校？～宮城県大崎市古川西小中学校の事例～

【教育課程の特色】

地域とともにある義務教育学校

- ・ 地域の関係機関、古西小中応援団と協働した学校づくり
- ・ 地域素材を生かしたふるさと学習

- ・ 古西小中応援団(学校、保護者、地域ボランティア)による支援
- ・ 地域を学習材とした「西学」の充実

発達段階に応じた学年区分

- ・ 前期部（1～4年）、中期部（5～7年）、後期部（8・9年）
（4－3－2の3期部制）

- ・ リーダー性の伸長（リーダー2回→3回）
- ・ 発達段階でのギャップ緩和(中1ギャップの解消)
- ・ 長期的視野での児童生徒への関わり→安心感

段階的な教科担任制

- ・ 全学年で一部教科担任制を導入
- ・ 後期課程教員による前期課程への乗り入れ授業

- ・ 専門性の高い後期課程教員による指導
- ・ 前期課程の教員に空き時間創出
- ・ 朝の会、帰りの会の担任交換など

異学年交流の推進

- ・ 学年交流 ・ 全校行事 ・ 期部行事

- ・ 【4年生】前期部での活動、ミニミニ委員会
- ・ 【7年生】中期部での活動、縦割り清掃
- ・ 【9年生】後期部での活動、児童生徒総会、学校全体での活動

個に応じた確かな学習の伸長

- ・ AIドリルによる「学び直し」「先取り学習」
- ・ 放課後学習「ふたばタイム」
- ・ 9年間の外国語活動・学習

- ・ AIドリル（ミライシード・タブドリ）の活用
- ・ 読書力向上の取組（αドリル、よむYomuワークシート）
- ・ 思考力向上プリントの活用(2週間に1回程度)
- ・ 学び直し期間の設定(年間3回)→つまずき解消
- ・ ふたばタイムの実施（毎週木曜）←全員指導

【参考】大崎市立古川西小中学校 学校ホームページ

<https://www2.educ.osaki.miyagi.jp/furukawa-nishi/index.html>



3.大甕・太田地区学校適正化に係る提案

【参考事例】
義務教育学校って、
どんな学校？
～宮城県大崎市
古川西小中学校の
事例～

令和7年度学校要覧

友愛・創造

やさしく かしく たくましく

創立 令和5年4月1日
校 木 サクラ

開校記念日 4月22日
児童生徒数 322名

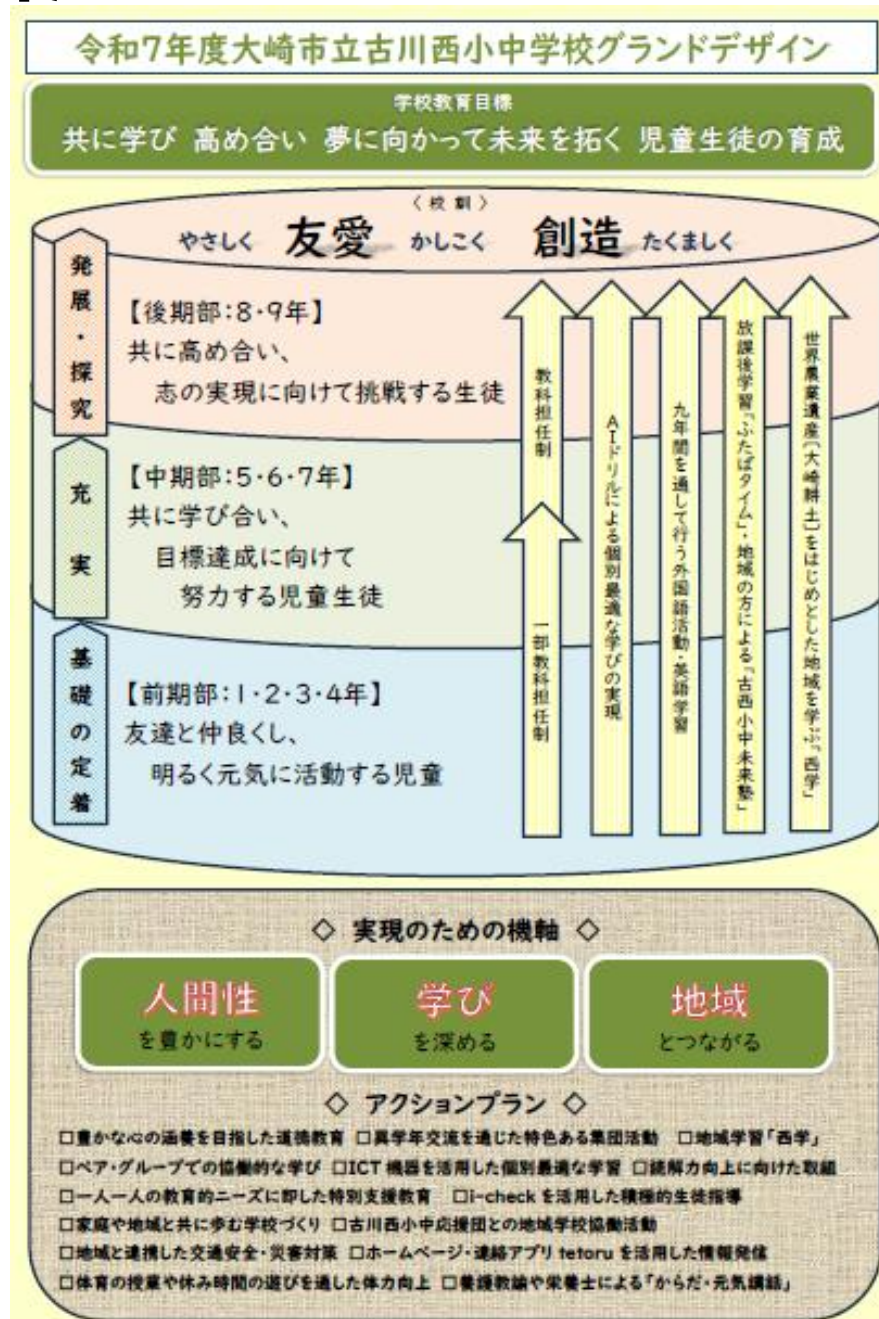
児童生徒数（令和7年4月8日）

期 部	前 期 部				中 期 部				後 期 部	合 計
学 年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第7学年	第8学年	第9学年	
児童生徒数	28名	32名	31名	39名	26名	44名	42名	37名	43名	322名

古川西小中学校の教育システム

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年
教育課程	前期課程（小学校の教育課程）						後期課程（中学校の教育課程）		
教育区分	前 期 部				中 期 部			後 期 部	
指導体制	一部教科担任制						教科担任制		
重点	基礎の定着 繰り返しの学習や補充指導等による習熟を重視。学習規律や基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。 1年生から一部教科担任制を導入し、複数の教員で子供を育成する。				充実 活用を重視し、論理的思考力の育成を図る。一部教科担任制や教科担任制を実施。専門的な指導やTTで、学習への興味・関心を高める。			発展・探究 志教育や発展的な学習を重視。自ら課題を見付け、主体的に探究し、解決する力の育成を図る。	
部活動					体験部活動		部活動		
委員会等			ミニミニ委員会	児童生徒会・専門委員会					

出典：大崎市立古川西小中学校 令和7年度学校要覧





3.大甕・太田地区学校適正化に係る提案

【参考事例】義務教育学校って、どんな学校？～宮城県大崎市古川西小中学校の事例～

【前期、中期、後期教務主任より（一部）】

- 児童生徒数が増えたことで、人間関係の広がりや多様な価値観に触れる機会が増えた。
- 7年生（中1）への進級時、小学校で担当してもらった先生と校内で気軽に話せる。
＝ 児童生徒にとって強い安心感となっている。
- 旧小学校区の行事（夏祭り等）に、他地区の児童生徒が参加するようになったり地域人材が旧小学校の枠をこえて活用されるようになったりしている。
- 中学校側から見ると、中学生の粗暴な行動がみられなくなった感がある。
- 前期・後期の垣根無く、授業作りを共同でやったり、生徒指導対応を協力しあったりすることで、小・中の教員それぞれの専門性や経験から互いに学び合える環境がある。
- 小学校の教育の立場からすると、中学校教員の専門性や技能が身近にあることが心強い。
- ▲ 行事の準備や打合せなど、全体で動く際の時間が合わせにくいため、主担当や各担当に係る負担が大きくなりがちである。
- ▲ 持ち物をはじめとする小学校で大切にしてきたことが、中期部で共通理解が難しくなってきた。
- ▲ スクールバスになったことで、歩く機会が減り、地域の方々とのあいさつを交わす機会が減った。
→ 地域の方々にとっては、学校との距離感が生まれる。

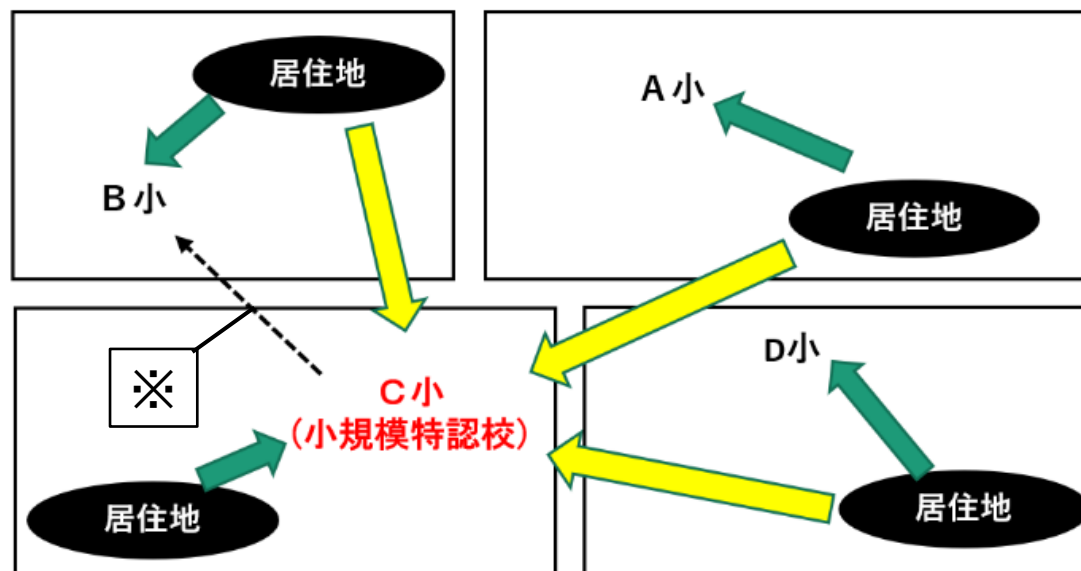


3.大甕・太田地区学校適正化に係る提案

小規模特認校とは？

- 小規模特認校とは、市内の小中学校から
児童生徒数の少ない小中学校への自由な通学を認めた学校。（小規模特認校の受入れ人数には上限を定める。）
- 他の通学区域に住んでいても入学、転学できると
市町村教委が定めた小規模学校。
- 文科省が導入した「学校選択制」の適用事例の一つ。

小規模特認校制度イメージ



※原則、他の通学区域の学校へ通う場合は「特別の事情（留守家庭等）があると認められたとき」に限られる。
教育委員会の許可が必要となり、本人の希望だけでは選択できない。

【参考】文部科学省

平成30年度「学校魅力化フォーラム」開催報告
事例紹介：栃木市「小規模特認校の導入と成果」





4.大甕・太田地区の学校教育

大甕小学校の学校紹介



【児童数・学級数】

(令和7年5月1日時点)



学年	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年	特別 支援	合計
児童数	16	17	19	18	12	22	6	110
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8

【教育目標】

- ・ 思いやりのある子ども
- ・ 進んで学ぶ子ども
- ・ 健康でたのもしい子ども
- ・ 大甕（南相馬）を愛する子ども
- ・ 最後までやり抜く子ども

【目指す児童像】

- ・ 互いに認め合い、誰にでも思いやりを持って接する姿
- ・ 進んで学習に取り組み、友だちと共に学び合う姿
- ・ めあてをもって意欲的に運動し、進んで体づくりをする姿
- ・ 地域に関心を持ち、そのよさに気づき、進んで働きかける姿
- ・ 「やってみよう」という意欲をもって、目標に向かって挑戦する姿

【学校経営方針等】

- ・ 豊かな心の育成と
互いに認め合う集団づくり
- ・ 確かな学力の定着
- ・ 生きぬく力の基盤となる
健やかな体の育成
- ・ 信頼された開かれた学校づくり

【具体的な取り組み(一部)】

- ・ キャリア教育の推進、道徳・人権教育、生徒指導の充実(自己肯定感の醸成) 幼・小連携接続(スタートカリキュラム)
- ・ 基礎基本の定着、ICT機器の効果的活用、「南相馬ふるさと至誠学」の実践
- ・ 運動身体づくりプログラム、望ましい食・生活習慣の定着、防災・安全教育
- ・ 積極的な情報発信、学校評価の充実、カリキュラム・マネジメントの確立



4.大甕・太田地区の学校教育

大甕小学校の取り組み（一部）



全学年で行う「緑化活動」（異学年交流）



大甕幼稚園との交流
1年生が作ったおもちゃで遊ぶ園児たち



地域の皆さんの協力で行った
「サツマイモの収穫体験」

「ふるさとクラブ」による法螺貝の演奏
校内発表、地区文化祭でも発表





4.大甕・太田地区の学校教育

太田小学校の学校紹介



【児童数・学級数】

(令和7年5月1日時点)



学年	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年	特別 支援	合計
児童数	4	2	4	11	8	7	0	36
学級数	1		1		1	1	0	4

出典：太田小学校 令和7年度学校要覧

【教育目標】

- ・ 進んで学ぶ子ども
- ・ 思いやりのある子ども
- ・ たくましい子ども

【目指す児童像】

- ・ 自ら考え、判断し、進んで表現する子ども
- ・ 思いやりの心をもって人と関われる子ども
- ・ めあてをもって健康と安全の維持増進に努める子ども

【学校経営方針等】

- ・ 小規模・少人数のよさを最大限に生かす教育活動の推進
- ・ 児童一人一人の確かな学力向上のための、個に応じたきめ細やかな指導
- ・ 認め合い高め合う仲間づくりを通して自己肯定感を高め、たくましく生き抜く力をはぐくむ教育活動
- ・ 健康・安全な生活を送ることができる知識と実践力
- ・ 保護者や地域と連携し、地域を担う人材としての人づくり

【具体的な取り組み(一部)】

- ・ こどもに寄り添った「こども主体」の学級経営、全職員連携した教育活動、保護者・地域と協働・連携した教育活動
- ・ 主体的・対話的学びの充実（「一斉指導」と「ひとり学び」）、ICT機器の活用とプログラム教育、家庭学習の充実・習慣化
- ・ 道德教育の推進、小中や小中連携を生かした学習・生徒指導、キャリア教育の推進
- ・ 学校行事と連携した体力づくり、食育指導の推進、安全教育の充実
- ・ 学校評議員やいじめ問題対策連絡協会との連携、地域人材を生かした教育活動



4.大甕・太田地区の学校教育

太田小学校の取り組み（一部）



地域合同で開催する運動会
全校児童が参加する鼓笛隊



「南相馬市の魅力」について探究
地域の方へのインタビューや
インターネットでの情報収集



地域の皆さんの協力で行った
「稲作体験」、「いちご狩り」



祖父母交流学习



4.大甕・太田地区の学校教育

原町第三中学校の学校紹介



【教育目標】

「自律」・「寛容」・「挑戦」

「自律」…自ら考え、判断し、責任ある行動をとること。

「寛容」…多様性を尊重し、広い視野で物事を考えること。

「挑戦」…未知の体験を通して可能性を伸ばすこと。

【目指す生徒像】

- ・ 自ら考え、判断し、責任ある行動をとる生徒
- ・ 多様性を尊重し、広い視野で物事を考える生徒
- ・ 未知の体験を通して可能性を伸ばす生徒

【学校経営方針等】

- ・【教科】自分に最適な学びを自力で計画し、実行する力の育成
- ・【道徳】広い視野から多面的・多角的に考える力の育成
- ・【総合】自ら問いを立て、探究し、最適解を生み出す力の育成
- ・【特活】自分達で考え、決定し、実行する力の育成
- ・【日常生活】自分の心と体をマネジメントする力の育成

【具体的な取り組み(一部)】

- ・「教え→学び」「伝える→獲得する」への意識の変革、学びを振り返る機会の充実、個に応じた家庭学習支援
- ・多様な価値観に触れる授業、郷土愛を育む授業(報徳仕法)、全校道徳の実施
- ・疑問、目的意識を喚起する課題設定、至誠学や体験活動を組み込んだ探究
- ・「課題→話し合い→合意形成→実施→振り返り」の充実、PDCAサイクルを生かした生徒会奉仕委員会の活性化
- ・学習とメディアのタイムマネジメント、食事・睡眠・運動のバランスを重視した指導

【生徒数・学級数】

(令和7年5月1日時点)



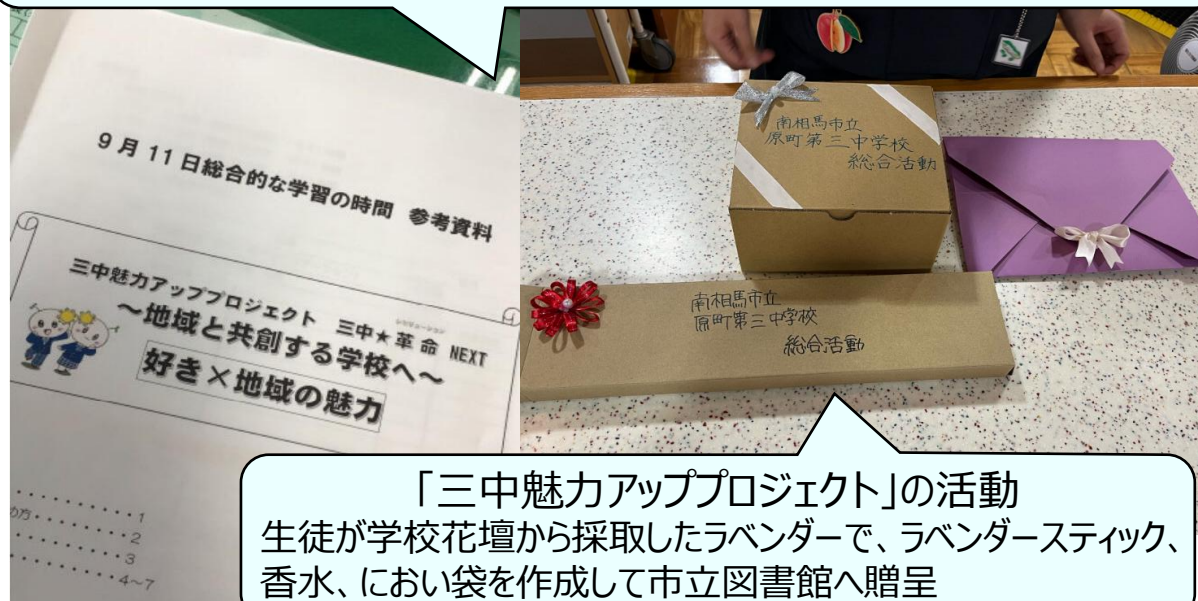
学年	1 学年	2 学年	3 学年	特別支援	合計
生徒数	15	26	21	0	62
学級数	1	1	1	0	3



4.大甕・太田地区の学校教育

原町第三中学校の取り組み（一部）

「三中魅力アッププロジェクト 三中☆革命（レボリューション）NEXT」
生徒自身がテーマを設定し、原三中の魅力向上・発信



「三中魅力アッププロジェクト」の活動
生徒が学校花壇から採取したラベンダーで、ラベンダースティック、香水、におい袋を作成して市立図書館へ贈呈



全校生徒が
協力して開催
した「燦稜祭」



全学年で行う
「緑化活動」
(異学年交流)

タブレットや電子
黒板などを活用
したICT教育





5. 新たな義務教育学校の教育

大甕・太田地区の教育活動の特徴

大甕小学校

太田小学校

原町第三中学校

少人数であることの良さを生かしたきめ細かな指導

学校・地域をフィールドとした探究学習

地域と連携した体験活動など

このような教育活動の特徴を最大化して

大甕・太田地区の教育活動の「特色」・「魅力」を継承し、発展・充実



5. 新たな義務教育学校の教育

義務教育 9 年間を児童・生徒が「安心して通える学校」づくり

9年間の「連携・接続」を意識した教育

- 一つの教員組織の下、小中の教職員が連携した教育指導（きめ細かな児童相談・生徒指導）
- 教科担任制・相互乗入れ指導（算数・数学、音楽、外国語など）
- 義務教育9年間を系統性をもって取り組む教育（ふるさと教育など）

少人数によるきめ細かな教育

- 少人数学級によるきめ細かな教育（チームティーチングなど）
- 学習支援員・介助員の配置により、一人ひとりに応じた就学・学習支援を充実

地域と協働した教育活動・学校運営

- 大甕・太田地区の地域資源・人材を生かした体験学習など、地域と連携した教育活動の展開
- 学校・PTA・地域住民と協働した学校運営（コミュニティスクールの設置検討）

学校・保護者・地域が協働した「地域とともにある学校」づくり

※協働・・・それぞれの得意分野を活かしながら一致団結し、力を合わせて物事を行うこと



6. 義務教育学校の設置に向けて

【市の方針】

新たな義務教育学校の位置は、大甕・太田地区の中心に位置する現在の「原町第三中学校」とし、「令和 1 2 年 4 月」の開校を目指して検討します。

【今後の必要な検討】

義務教育学校の設置のほか、放課後児童クラブなど学校以外でこどもたちの教育に必要な事項も併せて検討します。

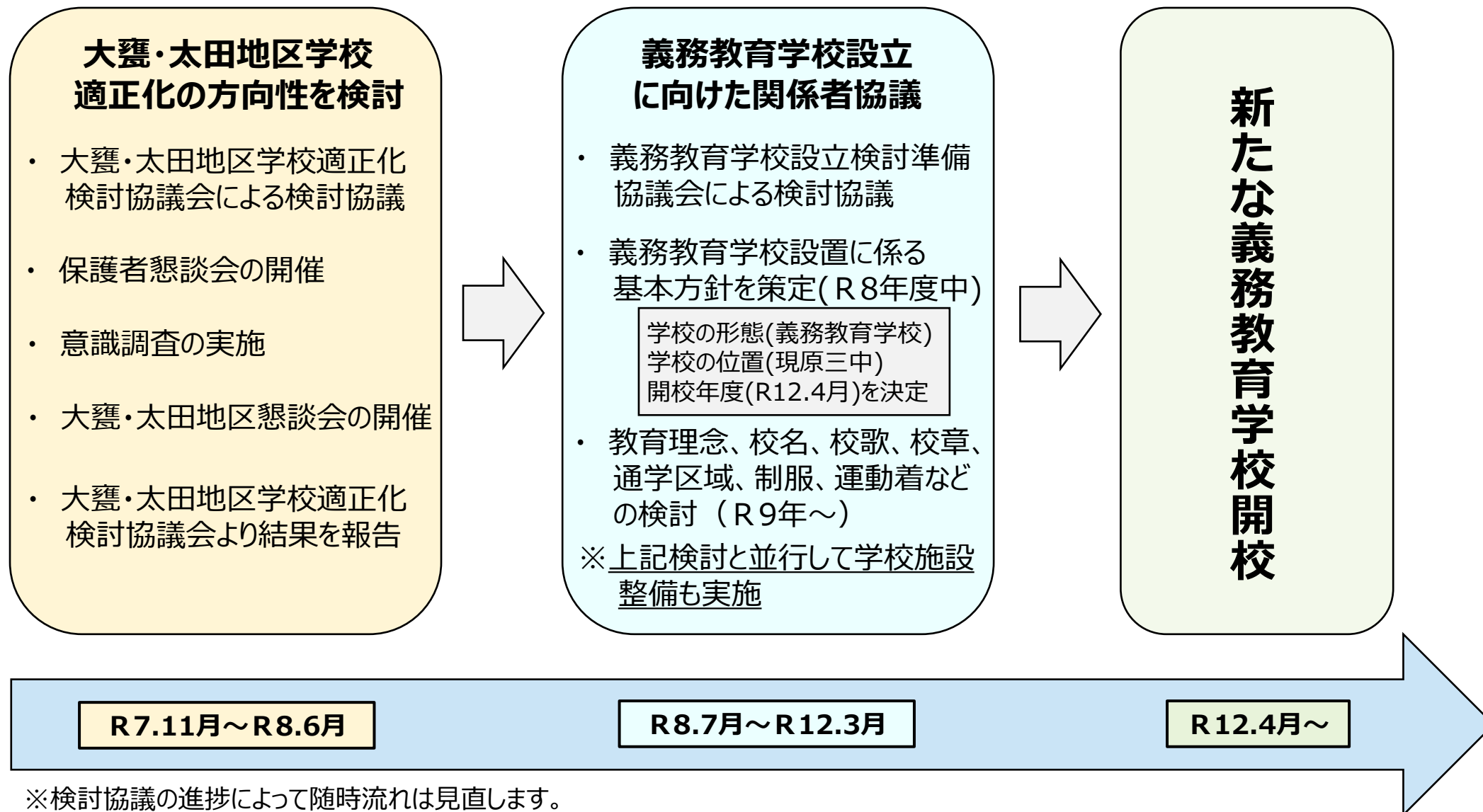
【方向性決定に向けて】

今回の提案（市の方針）はあくまで「たたき台」であり、方向性の決定には「大甕・太田地区学校適正化検討協議会」をはじめ、小・中学校の児童生徒、保護者、就学前の子を持つ保護者、地域住民から意見等を聞き取り、大甕・太田地区のこどもたちにとってより望ましい教育環境の実現を目指します。



7. 今後の大甕・太田地区学校適正化の流れ

【前提：大甕・太田地区学校適正化に係る市の方針に対して賛同（地域合意）が得られた場合】





8. 本日のまとめ

これまでの学校・地域で行ってきた教育活動と伝統を継承して

義務教育 9 年間を一貫したきめ細かな教育指導のもと
児童生徒が「安心して通える学校」

学校・保護者・地域が協働した「地域とともにある学校」

大甕・太田地区の教育の更なる発展・充実を図る

今回の提案（市の方針）は、あくまで「たたき台」
これから大甕・太田地区のこどもたちにとってより望ましい教育環境
の実現を目指して、保護者・地域の皆さんとともに考えていきたい



9.補足・関連資料

○資料 2「大甕・太田地区学校適正化について【別紙】」

○補足資料 1「小中一貫教育と義務教育学校について」

○補足資料 2「小規模学校と小規模特認校制度について」

○関連資料「南相馬市第三次総合計画」

URL : <https://www.city.minamisoma.lg.jp/portal/sections/12/1210/6/sakuteijoukyou/21933.html>



○関連資料「南相馬市第三次教育振興基本計画」

URL : <https://www.city.minamisoma.lg.jp/material/files/group/40/00.pdf>



○関連資料「南相馬市公立学校適正化計画」

URL : <https://www.city.minamisoma.lg.jp/material/files/group/41/20190703-090257.pdf>

